

## 薬用・有毒植物図鑑をつくろう！

科目責任者 阿 部 渉  
学年・学期 1 学年・1 学期

### I. 前 文

本学構内に生育する薬用植物および有毒植物を対象として、押し葉標本（ラミネート加工）を作製する。作製した標本について種の同定を行い、薬用植物あるいは有毒植物としての特徴を調査し、世界に一つだけの「薬用・有毒植物図鑑」を完成させる。これらの活動を通じて、薬用植物および有毒植物に関する基礎的知識の習得を目指す。なお、野外実習における安全確保および機材の制約上、受講者数は2名までとする。

### II. 担当教員

准教授 阿 部 渉（基盤教育部門）

### III. 一般学習目標

身近に生育する薬用植物および有毒植物の基本的特徴を理解する。

### IV. 学修の到達目標

- ・押し葉標本（ラミネート標本）を作製できる。
- ・身近な薬用植物および有毒植物を同定し、それらの基本的な特徴を説明できる。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の学修目標：

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。(p. 20)

RE-01-01-02 何事にも知的好奇心を持って取り組むことができる。(p. 27)

### V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他 空欄：該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	13	水	5	本学構内において薬用植物および有毒植物を採集する。 ・押し葉標本（ラミネート標本）を作製する。 ・図鑑などを使って、標本を同定し、薬用植物や有毒植物としての特徴を調べる。 ・自分だけの薬用・有毒植物図鑑を完成させる。  本科目は、時間延長を必要とする実習を含み、また植物採集が天候に左右されるため、授業日程は通常の時間割ではなく、別途調整して決定する。実習は3回（場合によっては4回）に分けて行い、全体で7コマ分となるように構成する。	阿 部 渉	4
2		20	水	5			
3		27	水	5			
4	6	3	水	5			
5		10	水	5			
6		17	水	5			
7		17	水	6			

### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

作製物（植物図鑑）（90%）および授業への参加態度（10%）に基づき評価する。

## Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

### 〔教科書〕

以下の資料を配布する。

『令和8年度人文自然選択科目 薬用・有毒植物をつくろう!』

日本植物園協会第四部会編著(2020) 薬草ガイドブック: 野外編, 改訂版. 日本植物園協会.

日本植物園協会第四部会編著(2019) 薬草ガイドブック: 薬草園へのいざない, 改訂版. 日本植物園協会.

### 〔参考図書〕

大橋広好ほか編(2021) 日本の野生植物: フィールド版 I, 改訂新版. 平凡社.

大橋広好ほか編(2021) 日本の野生植物: フィールド版 II, 改訂新版. 平凡社.

佐竹元吉監修(2012) 日本の有毒植物. 学習研究社.

小川賢一, 篠永哲, 野口玉雄監修(2003) 危険・有毒生物. 学習研究社.

木村孟淳, 酒井英二, 牧野利明編(2023) 新訂生薬学, 改訂第9版増補. 南江堂.

田中耕一郎編著(2020) 生薬と漢方薬の事典. 日本文芸社.

森正孝, 森昭雄, 國分英俊(2019) 薬草の眩き: 対馬から日本各地の山野へ薬草園へ, 追補再改訂版. メディカルサイエンス社.

鈴木洋(2011) 漢方のくすりの事典: 生ぐすり・ハーブ・民間薬, 第2版. 医歯薬出版.

### 〔ウェブサイト〕

『薬用植物総合情報データベース』(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所) ([mpdb.nibiohn.go.jp](http://mpdb.nibiohn.go.jp))

『今月の薬草』(日本薬学会) ([www.pharm.or.jp/herb/list.html](http://www.pharm.or.jp/herb/list.html))

『京都薬用植物園』(武田薬品工業株式会社) (<https://www.takeda.com/jp/about/local-locations/botanical-garden/>)

『くすりの博物館 薬草に親しむ』(株式会社エーザイ) ([www.eisai.co.jp/museum/herb/index.html](http://www.eisai.co.jp/museum/herb/index.html))

『自然毒のリスクプロファイル』(厚生労働省) ([www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/](http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/))

『自然毒』(消費者庁) ([www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/food\\_safety/food\\_safety\\_portal/natural\\_poison/](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/food_safety_portal/natural_poison/))

『有毒植物による食中毒に注意しましょう』(厚生労働省) ([www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/yuudoku/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/yuudoku/index.html))

## Ⅷ. 質問への対応方法

原則として随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作製した植物図鑑は添削のうえ返却する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, RE-01-01-02